

第2回河南町まちづくり会議 議事録

日 時：令和2年2月14日（金）午前10時～午後0時15分

場 所：河南町役場4階 大会議室南

出席者：委員）松久会長、山中副会長、浅岡委員、佐々木委員、山口委員、村元委員、松井嘉昭委員、尾本委員、金川委員、澤委員、落合委員、辻井委員、高木委員、浅野委員、岡本委員、上條委員、松田豊彦委員、松田和美委員、松井勝彦委員、井上委員、荻野委員、松本委員、森田委員 計23名

事務局）地方創生特命理事 玉川理事

総合政策部 辻本部長、秘書企画課 池添課長、大宅

傍聴）1名

1. 開会

事務局： おはようございます。会議に先立ちまして、町長よりひと言ご挨拶を申し上げます。

武田町長： おはようございます。早朝からまちづくり会議にご出席いただきありがとうございます。今、一番心配なことは新型コロナのことかと思いますが、夕べも加藤大臣がテレビで言ってはりましたが、より疫学的な検証が必要ということで国内でも発症が4例ありましたし、ただ最初の方に発症された方は元気になられて普通の生活に戻られています。河南町でもちょっと噂が上がったことがあります。東京・大阪を往復しているバスの運転手が罹られて奈良にいる、そのバスガイドが大阪市内にいて発症されました。そのバス会社が河南町にあるのではないかとネットを騒がして、町にもメールや電話で照会があり、河南町にもMK観光という大きなバス会社があり、電話がひっきりなしにきて、違うと断るのが大変だったと言う話を聞いています。町も大阪府、保健所と連携を取りながら、しっかりとしています。我々はもともと危機管理という解釈をしています。災害と同じように、伝染病についても、あるいはシステムを壊すパソコンウィルスについても危機管理として。今まで対策会議も3度ほど開催しています。日本全国に逃げるところがないように、普通のインフルエンザのように何年かするとなってくるのだらうと言われてはいますが、とにかく、うがい、マスク、手洗いと予防するということをしていただき、早く終息することを願ってやみません。

今回のクルーザーと、まちづくりとを照らし合わせると、今回のクルーザーには3,700人ほど乗っておられて、11万5000tですけど、世界ではクルーザーブームで、一番大きなのは41万tのオアシスだったと思いますが、日本は港が浅いので寄港できないのでヨーロッパ中心に廻っていますが、クルーザーの世

界というのは非常に生活しやすい空間で、今回のクルーザーも高齢者が多く乗り込まれていて、高齢者が非常に過ごしやすい内容で、水平移動、エレベーター移動、食べたい物は部屋に運んでもらえ、見たい映画が見られ、観劇などもあり、ある意味ユートピアみたいな空間だと思います。だからこそ、世界的なブームになった。ところが、今回のリスクは想像外のことで、やっぱり生活、あるいは、まちは、年代が偏ったまちづくりをしてはいけません。高齢、働き盛り、子どもたち、全部ミックスされた社会じゃないと危機に対するリスクが大きいと感じられ、今回の議論していただいているまちづくりの中にそういう視点が入った話をご議論いただけたらと思っているところでもあります。早く終息することを願いながら、会議の挨拶にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局： 町長におかれては、ここで退席します。それでは、ここからの進行は松久会長に移らせていただきたいと思います。

松久会長： それでは、第2回河南町まちづくり会議を開催します。本日、委員定数25名のうち、過半数の23名の委員に参加していただき、会議成立となっておりますことをご報告いたします。また、本日の会議は、「河南町審議会等の傍聴に関する取扱要領」により、傍聴を許可しております。

本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って、進行させていただきますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

資料説明に入ります前に、委員の交代がありましたので、ご報告いたします。りそな銀行富田林支店、支店長の異動に伴い、高木委員に交代しております。

また、第1回会議で欠席の、大阪府 尾本委員、大阪南農業協同組合 落合委員におかれましても、自己紹介をお願いします。

(3委員より自己紹介)

2. 事務局説明

松久会長： それでは、本日の資料について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料確認及び資料説明)

3. 討議

松久会長： それでは、事務局の説明が終わりましたので、ただいま説明のあった骨子案について、ご質問・ご意見のある方は、挙手を頂き、私が指名をしましたらご発言をお願いいたします。今日のメインテーマは骨子で、個別の内容は後日となります。

山中副会長： 冒頭の町長の挨拶の中にありました危機管理という分野の部分は、骨子の中に具体的な形としてどこで位置付けするのか。それと、危機管理の中には高齢者の危機管理もあれば、自然災害の危機管理もある。その全体的な危機管理というのは骨子の中でどういう位置付けをされているのか、ご説明をお願いしたい。

事務局： 今、ご質問いただいた点ですが、まず、1ページ目の基本的分野の中で、当然、安全・安心の中に自然災害も入っていますし、日常的な医療の話は医療・保健に入ると思いますし、先程、町長から話のありましたパンデミックのような危機的なことになれば、安全・安心と医療・保健の合わせ技みたいなことになると考えております。次に、3ページ目のところで、安全・安心は全てのものの基礎となるものなので、どこかに無理やり紐づけるようなことは明記していませんが、例えば、「はぐくめる」で、子供が成長するにしても、住民の方が自分の希望する生活を叶えるにしても、安全・安心でなければそもそもの前提が満たされないですし、また、「あそべる」においても魅力再発掘の前に、安心して暮らせないと、魅力再発掘している場合ではないと思います。「なじめる」にしても同じです。全ての基礎になる危機管理であるとか、高齢者の方について明記すべきというご意見であれば、事務局の方で修正案を考えたいと思います。

山口委員： 全体としては非常に美しいことなのですが、河南町が抱えている問題は、流出人口が多くて、流入人口が少なく、毎年、人口が減少している。こういう問題に対して、こういうキャッチフレーズでまとめていって、根本的な問題を解決することには全く結びつかない話ですよ。作文ですよ、これ。

事務局： 人口減少の問題の状況を直ちに反転させることは困難だと思いますが、ここで書いてある趣旨は、まず「あそべる」は、ここは単に観光客として来ていただくことを入口として、次の「なじめる」に繋がるんですが、住みたい人、興味をもっている人と記載している趣旨は、河南町に来てもらって、知ってもらって、興味を持ってくれるファンを増やして、その上で、河南町に住みたいという人が、河南町ってどういうところなのか、どうやって誰に相談すればいいのかなっていうのを分かりにくいところもありますので、そういったものを「なじめる」で、河南町に住みたい人、興味をもっている人に対するアプローチの改善を進めることで、問題解決に向けた取り組みというのを考えていければというのが、事務局の案でございます。

おっしゃった通り、この骨子の文章だけですすぐにご指摘いただいたような解決策が出るわけではないと思いますが、仮に、こういった考え方を皆様に認識を共有いただけるのであれば、それに基づいて、もう少し具体的にどういう取

組みをしたらどうかというのを、先程のスケジュールの所でございました3段目の「素案についての項目ごとの内容の議論」のところで、事務局からも案をご提示して、また皆様からご意見をいただいて、問題解決に向けた具体的な取組みについてご議論いただければと思っております。

佐々木委員： 根本的なことなのですが、第1回のまちづくり会議で二十数名から指摘・意見が出たんですけども、これがこの中にどう反映されているのか。まず、ご説明ください。

事務局： まず、参考資料1で多かった意見が、河南町の計画の柱が6本では多すぎるとか、全体的な構造については河南町の特長だとかをまず打ち上げて、それをビジョンの共有に使ったらどうかというご意見があったと認識しております。また、個別の意見として、大阪芸術大学との連携であるとか、若者が活躍できるとかといった意見があったと思っています。

最初の方の全体的な構造につきましては、新しいまちづくり計画の骨子なんですけども、まず、河南町の伸ばすべき特長を最初に打ち立てて、それを磨き上げるために関連が深いであろう分野というのを、柱の数を絞って立てることによって、見ていただいた方に河南町が目指すべき方向であるとか、それに向かっていくための代表的な取組みについて、ご理解をいただきやすいような形の計画にしたいと思い、このような骨子の構造にしています。

次に、個別の中身ですけども、追加でいただいたご意見も含めて、河南町の自然を活かすであるとか、教育ですとか、あとは高齢者の方が活躍できる環境をとというご意見が方向としては多かったと思いますので、個別の取組みは次回以降の素案の具体的な中身のところで検討するにしても、骨子の2枚目の河南町の伸ばすべき特長というところで、大阪市という都会から近いけれども自然豊かな環境や歴史があるところを今後も活かしていくということを書かしていただいた上で、子どもや高齢者の方は特に、「はぐくめる」のところで教育であるとか、高齢者の方も子どもに限らず、住民の方がライフステージであるとか、ご高齢の方であれば、ご自分の経験や知見を若い方に伝承していくといったこともあると思うのですが、そういったものを生活環境・ライフステージの変化において学び直しの機会の充実のところを書かしていただいたつもりです。

また、具体的な計画をつくる時には、もう少し具体的にいただいた意見を反映した素案を事務局としてご用意したいと思っています。

佐々木委員： 議事録を見ると、第1回まちづくり会議ではもっと多様な意見が出ています。先程、おっしゃっていただいたような人口のことも、かなり大きなウェイトをおいている。細かく言えば、ふるさと納税のことや色々とお出ている中で、参考資料1に取り上げられているのが、ごく一般的で誰しもの思いつくようなものしか取

り上げられていない。結局、骨子案がどこで作られたかについては、職員のワークショップで作られたということであれば、今、色んな知識を持った委員がここに集結しているのに、職員の考えでやっていますということであれば、本当に意味がないんです。私は、役場は意見の出る会議のやり方を知らないと思っていましたが、知っているではないですか。ワークショップをやったり、付箋を使ったり。それをなぜ、こういう場でしないのですか。意見を吸い上げようという姿勢が見られないので、今後、私達の意見を吸い上げるというのならば、今からでも皆さんの意見が聞きやすいように、ワークショップにするなり、付箋を今から持ってきてやるなりして下さい。

山口委員： 私はこの文章からは、やはり熱意が感じられない。想いが感じられない。意味がない。

事務局： なかなか厳しいご指摘なのですが、我々として、なるべく色々な取組みをこれから素案の中で検討いただくにあたって読めるようにしようということと、そうは言ってもあまりにも抽象的なことでは分かりづらくなるだろうということと、このような形にさせていただいておりましたが、もう少し分かりやすくということであれば、そういった修正案を検討させていただきたいと思います。

次に、会議の進め方ですけど、ワークショップという意見があったので、我々も一度若手職員でやってみようということ、若手でワークショップをやってみたのですが、やってみて良かったと思う一方で、ここにたどり着くまでに半日以上かかり、なかなか事務局の方でスケジュールを調整させていただく時に25名のお忙しい方々ばかりなので、時間をいくらでもかけてよければ、こうしたやり方も考えられるのですが、限られた時間の中で皆様にご議論いただきたい中でワークショップ形式は厳しいのかなと個人的には感じております。ただ、いただいたご意見についてどこまで何ができるかを内部で検討し、回答として申し上げたいと思います。

佐々木委員： 時間を区切ってやるという方法もできるんです。スムーズに時間内に進めることは仕切る方の腕次第で可能です。金融庁にいらっしゃったのであれば、知っているはずですよ。

松久会長： この会議は、上位計画の会議です。大まかな骨子を決めることが目的です。具体的な戦略については、第3回・第4回・第5回も含めまして議論する機会がありますので、本日は大まかな骨子、まちづくりにおいて重要な計画である以上、必要なことに抜けがないようにすることが重要となるので、その観点で議論をいただきたい。細かな部分の議論は今後、始まると考えております。

荻野委員： 骨子案について、第4次までの計画でまとまっている言葉遣い、内容よりは

かなり工夫されて進歩したという感想を持ちます。しかし、今回、集っている委員 25 名が十分、合意できる方向になっているかについては、まだ少し検討すべき課題が多くて、内容の詰めそのものもそうですが、併せて会議の進め方や何よりも今回までに至る経緯の中で、河南町まちづくり計画に関する総括、つまり、どのように進んできてどのように捉えているのか、現状で河南町はこういう問題を抱えていて、これとこれを解決したいといった鮮明な問題意識が、まだ、我々は見えていないのです。我々は会議に入って、白紙の状態以案作りを臨みたいと思っているのですが、それでは今までこの計画に関する審議として、第 4 次総合計画とまちづくり戦略という大きな柱があるのですが、現時点で何をどう評価されているのか、進捗状況含めてあらかじめの内容を事務局からお示しいただかないと、なかなか前に進みにくい。

それからもう一点は、町で策定されています他の様々な計画との整合性です。例えば、既にできあがっている公共施設総合管理計画。2065 年を目途に作ろうとされている内容が披歴されております。二つ目に次世代育成支援計画。認定こども園等の整備計画がございます。三つ目に地域公共交通基本計画が出されております。四つ目に空家等対策計画も出されております。そして五つ目に都市計画マスタープラン。これら全てよく似たまちづくりの基本に関するそれぞれの角度からの計画ですね。それらとあわせて今回、策定しようとしている新たなまちづくり計画でどのように調整されているのか、ということをはっきりとお示しいただきたい。大きく二つ、質問したいです。

事務局： これまでの取組みとこれまでの進捗については、前回の会議資料 3 で、二つの柱のうちの後に策定した総合戦略における KPI と呼ばれる成果指標。5 年間かけてのこういう風にしていくんだというのを立てて、取組みをして、達成できているものもあれば、達成できていないものもあるのですが、それを踏まえて、事務局としての認識というのを前回資料 3 と資料 4 でまとめてご提示させていただきました。改めて申し上げますと、子育てとか流入人口とかについては、達成できている KPI も多かったのですが、一方で、所謂、芸大さんとの連携や産業系については、なかなか KPI としてはできているものが少ないのではないかといった中身であったと思います。

次に、他の計画との関係性についてお尋ねであったと思いますが、例えば、公共交通もそうですし、色々な計画もローリングが前提となっているものもございますし、そうでないものもございますが、この計画自体が最上位の計画という位置づけで皆様にご議論いただいていますので、仮に、皆様にご議論いただき、このように進めていくという結論が出れば、下に位置づけられる計画と整合性がとれないというのであれば、下の計画を見直すという順番になろうかと思えます。

荻野委員： わかりました。前回の資料は判読しておりますし、KPI のことも出ていますが、ハッキリ申し上げて、あれでは何も分からないのです。おっしゃったように、絵に描いた餅になっているし、作文だと。またある人に言わせれば、どの町・市でも通用する言葉の配列で特別、河南町でなければならぬ計画になっていない。つまり、一般的なものだ。第4次総合計画までのプランニングとまちづくり戦略までの過程の努力は分かりますけども、第1次総合計画の高橋町長の時に出された、最初で意気込んで出された総合計画の中で百数十ページにわたる分厚い冊子でまとまっております。第3次か第4次で更にグレードアップして、今までランダムに並んでいた政策が少し立体的に「いきいきかなん」など6つのテーマで、そこまで絞り込んで何とか町らしい、河南町の様子を探ろうとして、そこまでの言葉の整理もしてこられたんですけども、それがよく分からないのです。子どもの問題を言っているのかと思えば大人の問題も言っているし。観光の問題を言っているのかと思えば農業政策のことも言っているし。基盤づくりを言っているのかと思えば安全・安心のことを言っている。ダブルバインドで、6つのそれぞれの項目の中に複数の要素があって、結局、何を言っているのか分からない。それを「いきいきかなん」とかでまとめて、分かったような分からないプランになっている。熱意が感じられないという評価なのです。

先程、町長がお見えいただいた。今回のまちづくり計画に関して、まちづくり会議を招集しますよということで規則が出来上がっていますね。河南町まちづくり会議規則。これが根拠で我々は町長の諮問を受けて、計画を答申するという事になっているのですが、それを採用しようが、採用しまいが町長の一存に係る可能性もありますし、大抵は意見を承ったから、「はい」と受けられてそれが計画書として出来上がるわけですが、今回のまちづくり会議規則を読みますと、「次に掲げる事項について調査、審議し、意見を述べるものとする」という要項にまとまっている。まちづくりの総合的な計画に関する事と、人口ビジョンに関する事と、前項に掲げる以外のもので町長が必要と認める事項でのまちづくり計画を調査し、審議し、意見を町長に上げると。これが諮問委員会の目的なのですが、単なる言いつ放しで終わるのかと。我々がこのように考えました、こんなプランを作りましたといったことがどう扱われるのか。町長がどのようにされようとしているのか。町行政の責任者として、「今、これを諮問するけども、あなた方、この点をしっかりと検討してくれよ」といった力強い一言を町長からいただきたいと思います。今回は無理ですので、次回までに、町長にそのことについてのご見解を事務局から承っていただけないかということをお願いいたします。

事務局： もともとこの会議自体が、そもそも河南町の大きな課題は何だろうという話

やそれを踏まえて、今後、5年間どのようにビジョンに向かって何をしていくのかということについて議論いただくので、河南町の重要なことはこれだということも含めてご意見をいただきたいというのが、そもそもの諮問の趣旨だという理解ですが、今、おっしゃったのは、町としては「これ」が大事だと考えているがどうですか、というようにした方が良いということでしょうか。

荻野委員： いやいや。我々が意見をあげて一つの計画性をまとめ上げるにしても、町長は3期、4期と務めてこられて豊富な経験をもっていらっしゃるのですから、今回この期間に計画を練らせるにあたり、「君達、こういう課題があるからこうしてくれよ」ということがあるのか、ないのか。先程、ウイルスのことで多様な人が住んでいるまちづくりについてご議論してくださいとの一言ありましたが、もっと、この任期を務めてこられた町長だからこそ、今までのまちづくり計画を踏まえて弱かった点、また強かった点をどう伸ばすかを町長に予め、委員会審議のヒントとしてご提案いただけることがあるのか、ないのか。なければ、ないで構わないのですが。なぜ、そのようなことを聞くのかと言えば、先程の委員さんも熱意を感じないと言われた。前回までの第4次総合計画やまちづくり総合戦略では、部署の責任者も若手も含め、部署ごとに何度も議論を行い、タウンミーティングもしている。審議経過を説明する必要はないと思うが、審議会が8回、庁内委員会が9回、議会では6回の総合計画に関する審議がなされ、アンケート調査がなされたのが、第4次総合計画までの会議の進め方である。さらに、まちづくり戦略というのが出てきて、庁内推進本部が設けられて5回の会議、それとは別に戦略部隊会議が設けられて10回会議、その他にワールドカフェと称するワークショップがなされ、プロジェクトチームが編成された。こういう形で総合計画も、まちづくり戦略もしているのに、それに比べると、今回はあまりにあっさりとしている。委員会に諮問されて、5回か6回でプランニングまでもっていくという。たまたま1つの案として、若手職員の庁内ワークショップで意見が出たと。それしかやっていない。もう1回言うと、熱意が感じられない。町長の姿勢をお聞きしたい。まちづくり計画の過去からの根本的な進め方を今回どうすればよいか、はっきり見えない。

事務局： 庁内の議論を参考資料3でご説明した趣旨は、普段では行わないことに取り組んだので紹介させていただいたが、骨子案を作成するにあたっては、ここにいる事務局メンバーだけではできませんので、庁内に部長級の職員をメンバーとしたまちづくり委員会を立ち上げて議論している。また、委員会でいきなり議論するのではなく、各部署から問題意識や意見を聞いたうえで、作成している。それを説明すれば良かったのかもしれませんが、そういうことは前回だけではなく、今回もやらせていただいております。また、アンケートやタウンミーティングは、まだ実施できていないという指摘はその通りですが、前回のま

ちづくり会議で荻野委員からいただいた、「住民から意見をいただくべきではないか」との指摘を踏まえ、今後タウンミーティングなどを実施させていただき、その意見を踏まえて皆様にご議論いただく機会を設けたいと考えているところです。

次に、町長にはもう一度相談させていただきますが、その前にもう一度だけ趣旨を確認させていただきたいのですが、前回、町長から冒頭にご挨拶申し上げた際、町長が国立社会保障・人口問題研究所から人口統計が出て、河南町は消滅可能性都市の中に入っている。国勢調査ベースだと2005年に人口ピークを迎えた後に人口がどんどん減ってきていて、先程申し上げた社人研の推計でも消滅可能性自治体に入っているという厳しい状況にあり、どうするかを考える必要あると申し上げさせていただいておりました。それよりも、もっと踏み込んだ何かがあった方がご審議していただきやすいということでしょうか。

荻野委員： その通りです。あれでは抽象的過ぎです。

松本委員： 前回の資料の中で、第4次総合計画を配布いただいております。その中で、令和2年の想定人口は18,000人。それから、それに対して実際の人口は16,000人弱という風な数字があがっていると思います。しかも、その中で65歳以上の高齢人口が約30%を占めているという。将来的にも、人口は右肩下がりです少なくなっていくだろうという中で、新しいまちづくり計画の骨子案に河南町の活力が衰退していくという実情をどう位置付けしていくのかというのがよく分からないと思います。河南町の活力を維持する、あるいは引き上げるという方向性で、人口を増やすためにどういった政策が必要なのか。「あ・な・ば」という言葉で謳っていると思うが、それを明確にさせていただいた方が我々で対策を立てやすいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

松久会長： ありがとうございます。この会議が何のためにあるのかといったことや、意見が直接町長に上がっていくのか、反映されるのかといったお話がありました。

今回の「あ・な・ば」という3つの項目に分けた理由ですね。そして、下にいっぱいありまして、これは最上位計画として全部含んでいますよという、それから人口問題を含めてどうするかとか、どうしたら活性化できるのかを含んでいます。個別のことは大切なので議論はしたいのですが、本日は骨子を上位計画として認めてもらえるのかということ。その上で戦略的なことを話し合っていくのはこれからすれば良いかと思っています。他にいかがでしょうか。

澤委員： 骨子について色々、言及したいと思います。骨子の2枚目、河南町の特長として掲げられている「利便性」について書かれておりますが、これに対する見方はどうなのか。それを皆様に色々ご意見出させていただいてはどうかと私

は思っております。私は、大阪市内から約1時間という利便性の前に「ゆとり」と「利便性」。「ゆとり」とは、せかせかとしていない、距離は程よい距離にある。だからこそ利便性が良いのだというものの理解ができる形をここに入れていただければと有難いなど。それから、自然の豊かなことを書いています。皆様方の土地というのは、昔から、古墳がありますけど、古墳時代から安定したいい場所だから住んでおられるのだらうなど。あるいは、切り開いてきたから住んでいるのだらうなど。ですから、住むところとして良いところであったと思います。では、現在ではどうでしょうか。現在、住み心地が悪いなら、歴々やってきたことが間違っていたということになる。そういったことが表れるのが、この場面だらうと思うのです。その中には当然、利便性も出てくるのですが、災害にも強い、そういう知恵が集まった場所であるということですね。そういったことを背景に理解すると、もう少し読めるかなと思います。

骨子の3枚目、「あ・な・ば」についてなのですが、「あそべる」という言葉は「あそびがある」という風に私は理解しました。文字通り、遊ぶことができる。さらに、ゆとりがある。伸びしろがある。そういう遊びの余白があるというのを含んでいる場所が河南町なののだらうなど。だからこそ期待を持って、今後発展していけるのだらうなど。そういった期待感を表せる表記があった方が良いのかなと思いました。だから、「あそべる」よりも「あそびがある」というニュアンスで考えました。もう一つ、「なじめる」は、この土地とDNAが合致しているか、ということではないでしょうか。皆様方はずっとこの土地で住んでおられるから、おそらく合致しているのだらうなど。ではそれは何なのか。DNAをくすぐるものは何なのか。これを計画の中に表すというのがイメージとして出てくるのではないかと。双方向のコミュニケーションと書いておりますが、自然、生物、地形、人と色々なDNAに一致点が多いのであらうなど。だからこそできる伸びしろを持っていると繋がっていくのかと。そして最後に、「はぐくめる」では、河南町の特長である育みの知恵と言いますか、これを是非、活用して欲しいと思います。先程、申し上げた、良い場所だから昔から住んでいる。「はぐくむ」をベースに伝承されている知恵もあるのだらうなど。そのように考えてくると、教育、保育の質の更なる向上と書いていますが、向上の知恵がある場所なのです、と言ってしまった方が良いのではないかと思います。その知恵はこうなのです。ですから先程、おっしゃられた歴代の計画が積み重なっていくことが知恵に繋がっていくのかなと。「〇〇の知恵」ともってくると、全体のイメージとしては分かってくるのかなと。

今回は、頭に戻りますけども、「あ・な・ば」という項目よりも2段構成としても良いのかどうかの意見を出してもらった方が、担当者の方も分かりやすいのではないかと思います。2段構成でやるということで、その2段目の今まで

やってこられた総合計画及びそれぞれの計画の最上位になってくるわけですから、それらを満遍なく要素として入れておかなければいけない。行政としてやっていく上では、当然、必要になってくるであろうと。もう一つはその上にある、資料1にある①の項目、これに対して色々と意見を言っていき、形、イメージのあるもの、あるいはオンリーワンを今後の会議の中で追及していけば良いのではないかと。それと同時にそういったところを②のところでも全般的に対応できる形になっていけば良いのではないかと。その上で、①の今後5年間の取り組み方針について検討していくとありますが、概ね5年間なのであるうなど。私が前回言いましたように、やはり将来10年、50年とそれに遜色ない方向性と位置付けていってほしいなと思っております。

私は外部の人間ですので、外部から見た時にどういう点が河南町として良いのだろうかということは分かりますので、そういう視点でお話しさせていただければと思っています。

松久会長： どうもありがとうございます。

金川委員： 新しいまちづくり計画の骨子案の目的として、人口減少時代において河南町の持続可能性、言うならば、消滅しないにはどうするのかと挙げられていると思いますが、まず、これが良いのかどうか。決してダメと言っているのではなく、認めるのであれば、その方向性で動くというのが大事になってくると思うのです。下に、「あそべる」「なじめる」「はぐくめる」と3つありますが、人口減少時代において河南町が消滅しないためには、「はぐくむ」ということで新たな人にどんどん入って来てもらい、ここで産んで育ててもらおうというのが最重要課題になってくるのではないかと思います。そうすると、その下に8つの基本的分野がありますが、その中で子育てや教育、医療・保健、安心・安全が優先順位としては二重丸になると思います。ちなみに、河南町にお金はあるのでしょうか。財政に余裕があるなら8つ全てをやっていけば良いのですが、それがなかなかできないから、例えば、大阪市であつても窮しております。私は大阪市の東住吉区、針中野が最寄り駅で、駒川商店街が校区の小学校にありました。周りは空き家だらけです。針中野駅まで歩いて5・6分、駒川中野駅も7分、15分程歩けば御堂筋の西田辺駅にも歩いて行け、区役所も近く、警察署が2・3分の所にあると、インフラの充実した住みやすいところでありましたが、先日、母が亡くなり、空き家になりました。その後、更地になりました。隣のアパート4軒にも誰もおらず、正面の長屋も歯抜け状態で、インフラの整備された便利なところでもどんどんと寂しくなっています。というところで、河南町が生き残るためには、1時間というのは来てもらえるのか、それとも吸い取られるのか、非常に微妙なところですが、ここに住んでいて1時間かけるので

あれば大阪市内に住もうか、ということにならないようにすることがこの部分に求められることではないかなと思います。ですので、8つの基本的分野におけるインフラ整備、これはやり始めるときりがありませんし、農業振興、ここで農業をして住み着いてくれればよいですが、なかなか難しいと思います。観光や商業、確かに河南町は富田林市や堺市と比較すると微妙であったりします。この分野が今からぐんと伸びていくことは、大変かと思います。全世代福祉ということで子どもやミドル、子どもでは中学、高校、大学と全世代にというのは、これも大変だと思います。60歳以上が30%ということで早い話、20年後にはその方々いっしょらなくなるという時に、そこの代わりとして、誰かを引っ張って来てそこに定住していただいて、そして、一人と言わずに二人、三人と子どもが増えて、その方々が「ここは良いよ」と言うには、インフラが整っているとか、観光地だよとか、安全・安心して住めるよと。また、医療や子育てに支援がある。小学校の先生がとてもニコニコしている。今は小学校の先生も上から色々と言われて元気がない。行政が変われば先生達も変わります。そういったものが最重要課題かと思います。結局、たくさん並べると虻蜂取らずになり、10年後にさらに人口が減少して、手の打ちようがなくなるということにならないかなという気がします。

松久会長： ありがとうございます。今は大阪市内であっても非常に厳しい状況、日本全国そうなのですが、決してまちづくりは簡単なものではないですから、何とか生き伸びられるように皆様に意見をいただきながら前向きに考えていきたいと思っています。ただ、8つの項目はどれも重要となります。その中でメリハリがあって、関連していることも多いので、具体的な戦略は今後、議論していきたいと思っています。

佐々木委員： 骨子に関してですが、まず、1枚目に目的の河南町の持続可能性を確保すること、という部分がありますが、人口減少という前置きがありますが、この前置きを取ると、人口を維持したいという想いしか汲み取れないのですが、2枚目を見ていくと「利便性」と「自然」という柱もあるので、持続可能性というものは河南町の特長である「自然」を維持していくという意味での持続可能性も必ず必要だと思う。それが、自然を維持するという部分が8つの柱にも、どこにも載っていないので、持続可能なエネルギー問題も含めてそれをどこか一つとして大きな柱として取り入れるべきである。

また、河南町の特長「知ってまっか、意外と住みやすい」。これだけを見ると、外向けのメッセージなんですね。「意外と住みやすい」、住んでいる人はもう知っています。住んでいる人に対しての言葉ではないので、これが気になります。住民から見てもメッセージを汲み取りやすい言葉にすべきではないかと。

その他、利便性に関する記載で「狭小住宅や待機児童などの問題が少ない」と書いているのですが、待機児童はいるので、ここに記載しても大丈夫ですか。少ないという言葉で濁してはいるが、待機児童は発生するので、記載してしまうのはどうかという気がします。

事務局： 待機児童につきましては、部署内でも色々と検討いたしました。ここに記載しておりますのは、平成31年4月1日時点でゼロとなっており、目標としましてもゼロに近い数字にもっていきたいと考えておりました、このような表現で書かせていただきました。

佐々木委員： 一般の住民に向けたもので、4月1日の時点ではゼロであっても、実際にはいるので、適切ではない。

事務局： おっしゃる通り、待機児童は4月1日時点ではゼロで、途中で発生している状況であります。その点につきましても庁内で今後どう対応すべきが検討しておりますので、本計画に沿って一緒に検討していきたいと思っております。

浅岡委員： 先程、ご意見が出ておりましたが、これまでの総合計画や総合戦略の反省も含めて、不十分だったところや今後も継続していかなければならない部分が多々あると思うのです。その部分を出していただいて、骨子案を作っていくべきではないかなと思います。と言うのも、国は地方創生の第2期の総合戦略を作成しており、前回も行政に質問したのですが、地域未来の投資促進法ですか、そういう形のものも上がってきておりますので、国の方向性も含めて、これまでと変わっているところを踏まえて考えていくべきではないかなと思うのですが、まずは、これまでの第4次総合計画と総合戦略についての反省点、また継続しなければならない点があれば教えていただきたい。

事務局： 反省点は色々あると思いますが、総合戦略の KPI で大きく言えば、人口流入は我々が予測したり、目指したりしたよりも多いのですが、一方で、人口流出も多かったです。もう一つ、道の駅を含め産業だとか、商品開発などを総合戦略で重点的な取組みとして取り組んできましたが、必ずしも KPI を満たしているものではないです。

国の総合戦略の中では、第2期の総合戦略が出されており、第1期の PDCA 検証を踏まえて、うまくいったものはうまくいったで良いが、うまくいかなかったものは改良して続けるのか、もしくは別の道を探るのかを検討するようと言われております。改善すべき点と、引き続き実施する点を明らかにするようにと示されております。

前回、事務局の方でお示しさせていただいた資料では、例えば婚活事業のように、やり方を間違えると良くないといった指摘があったと思うのですが、方法を変えていくものも一部ありますが、基本的には産業系の取組みでは、うまく

いかなかったから産業系は諦めます、というものではないと事務局としては考えていますので、何らかの形でやり方を工夫した上で取り組むべきではないかという言い方を前はさせていただいております。ただ、それだけでは分かりにくいという意見を先程、荻野委員からいただいておりますので、今日いただいた意見を踏まえて骨子案を修正するにあたって、どういった風に事務局としては認識し直したのかということも含めて、説明できないかということ個人的には考えたいと思います。

浅岡委員： ありがとうございます。始めにお伺いしようかと考えていたのですが、若手職員の意見交換会で上がってきた案だと思うのですが、果たして、若手職員 20 名程は河南町にお住まいなのか。その職員に率先してお住まいになっていたのか、疑問が残る。また、先程も出ておりました、事業を行うにあたってはどうしても予算がついてきますので、国が出している計画に則っていかないと、なかなか厳しいところもあると思いますので、どういう道筋で、どういう計画を国なり府なりが持っているのか。それに則っていけるような案を考えていかなければ、折角考えても絵に描いた餅にならないように進めていかなければならないと思います。質問としては、参加職員はどの程度、河南町に住んでいますか。

事務局： 正確には把握できていないのですが、おそらく、半数近く、あるいは半数には満たない程度かと思えます。ただ、十分に住民とも接しておりますし、現場等も見ておりますので、そうした点も踏まえて、ワークショップに臨んでいたと考えております。

浅岡委員： もう一点、よろしいでしょうか。若手職員の意見交換会ですが、第4次総合計画や総合戦略の始まった当時の職員がおられるのであれば、その当時の意見もその場で話してあげられるように今後していただければと思います。

山口委員： 前回会議で第4次総合計画の資料がありましたが、第4次総合計画は非常に網羅的であるけども、それを第5次にどう活かしていくのかという会議でないといけないと思います。新しく作るのではなくて、折角、今まで蓄積してきた中から何をやっていくのか、そして、それを反映した骨子案でないといけないと思います。

事務局： もともと、今後、素案をご議論いただく際には、もう少し細かい中身についてご議論いただくことになるとは思いますが、その際には、今、山口委員がおっしゃったように、第4次総合計画や総合戦略で「ここは取り組んできたけど、ここはダメだった」といったことも含めてやらないと細かい中身は決まらないと思います。一方で、なぜ、今回、そこまで細かいものをお示ししなかったかと言いますと、先程も、8つの項目でもう少し自然に関するものも打ち出すべ

きではないかという意見もありましたので、これで網羅されているかは別にしまして、一般的に行政として重要とされている分野がある中で、河南町として、何を重視するのか、住民や有識者の方々からみて何が重要なんだというものを、個別の反省とは違ったところで大きな方向性というものを出した方が、過去の実績は大事だけでもそれに引っ張られすぎて、その延長線上になってしまうのは良いのかどうかも含めてご意見をいただいた方が良いのかと思い、今回はこのような形にさせていただいたのですが、本日、様々なご指摘をいただいたので、次回、案をご提示する際にはご指摘を踏まえたものを作るように努力したいと思います。

山口委員： 竹本先生が IT 関係の大臣ですから、国には金があります。骨子の文章に IT のことがあるけども、日本でモデル的な、日本の中で唯一、河南町が新しくやって、それで国家予算をいただきたいというような、スケールの大きい独創的な案が欲しいですね。

辻井委員： 基本的なことをお尋ねすることになりますが、この骨子なんですけど、これは住みたい町なのか、来たい町なのか。今、一番言われていることは、例えば全部、東京化って感じでどこも若い世代は、東京へ東京へということなんです。ですから、例えば東京圏という言い方は千葉県に住んでいて東京の文化を享受したい。ところが、家賃が高いので千葉県に周辺として住んでいると。東京の文化を、香りを嗅いでいたいから。今も、ここがそうなのですが、河南町へ住みたいのか、河南町へ来たいのか、オンリーワンというあたりをもう少しですね。勿論、来るだけでも十分な価値はあるとは思いますが、本来的にはそこを、人口減少時代において河南町のオンリーワンでないと、最終的には来ただけではどこかで魅力は廃れてしまいますので、住みたい河南町である。ここにも書かれているオンリーワン。この資料に人口減少、目的というのはありますけども、もっともっとオンリーワンである河南町という魅力をもっともっと打ち出していただいたら、骨子的にも、私も外の人間ですのであれですが、もっと河南町の魅力を。そうでないと内外に訴えかけていけないので、先程もありました内向きなのか、外向きなのかという話もありますので、そのあたりもう少し明確に出る感じで骨子に入れていただけると、我々外の人間にも分かりやすくなるかな、と思う次第でございます。

松久会長： ありがとうございます。IT をもっと活かすべきや河南町に住みたいのか、来たいのかという具体的な戦略を立てたいという、私もその方に興味があるのでそうしたいところですが、全体の上位項目については、いかがでしょうか。

佐々木委員： 8つの大事な項目の中に行政の効率化・高度化が入っているのが解せない。それは行政で勝手に独自に努力すべきことで、町民にアピールして住んでくれというものではないので、気になりました。

事務局： 行政の効率化・高度化につきましては、行政の効率化・高度化を活かしまして財源を確保し、他に記載しております基本分野、他の7つの項目の事業に展開していくという形になると思います。ですので、事務局の意見としましては、入れるべきと感じております。

井上委員： 「あ・な・ば」というキャッチコピーがすごく気に入っている。鳥取県がスターバックスに対抗しまして、砂場コーヒーというものをニュースでやったのですが、それで一度に鳥取県が有名になりまして、この「あ・な・ば」というものは素晴らしいキャッチコピーではないかと思っております。ただし、「あそべる」をですね、澤委員のおっしゃる通り、言葉を変えた方がいいと思いますし、「はぐくめる」がなぜ「ば」になるのか、屁理屈みたいですが、気になります。この「あ・な・ば」をキャッチコピーとして進めていくべきと私は思っています。

金川委員： 先程、申したことと重複するのですが、この8つを出してしまうと、ほぼ全てのことが含まれると思うのです。役所のことであったり、行政のことであったりと。やっぱり一つのことには邁進していこうとすると、ある程度我慢しないといけないところが出てくると思うのです。やはり、この8つについては並列的に並べるのではなくて、その中で軽重をつけてこれは優先的に頑張ろう、逆にこちらはやりたいと言う人がいるが、辛抱してもらおうという、役所的に、住民的に我慢する、諦めること。例えば家を持つためには小遣いを我慢するとか、外食を我慢するとか、普通の生活でもあるように。やはりこれだけの数を出してしまうと、結局、何でもありになってしまって、今までと同じようにずっと進んでいってしまうと思うので、そこは我慢の縛りという意味で、この8つを減らすか、軽重をつけるかが必要ではないかなと感じます。

松久会長： これは全体と部分との関係性なのですよ。行政としては網羅しておかないわけにはいかないわけですよ。それぞれの部署があって、それぞれされているわけですから。ただ、町の戦略としては、ある程度絞った方が良いということはその通りだと思います。

荻野委員： 8つの項目の絞り方、8つを6つにする、そのことが前回までの近々の戦略で出てきたものに関わるわけですよ。これは、先程から意見がありますように、反省すべきはし、新たに展開して伸ばすべきは何を伸ばすかという、その視点で計画が練られるべきであるということなんですね。そうすると、今回の、会長はとにかく基本的な骨子を認めるかどうかという議論に進めておられますから、あえて協力的に話をするのであれば、「あ・な・ば」というフレーズで3つの流れに落として、そして8つの項目とすると、下の8つはですね、6つに絞れると思う。そうすると、その6つと総合戦略で出てきた「子どものびのび」「元

気もりもり」などのフレーズと合わせたら、整理がつくだらうと、私はそう感じました。そうすると今までの失敗を一応、乗り越えられるのではないかと。つまり、尺度、基準ですね。何を以て、町の発展とみていくか。あえて会長の期待に応じて骨子づくりについての具体案。おっしゃった「あ・な・ぼ」という発想は非常によろしい。そこで、この計画が町の最上位の計画であるなら、町の行政のバイブルにならないといけない。つまり、これを以てこれから5年間は、町は歩みますよと。それに従って議会は監視されて、意見を述べて、甲乙を言って議論を進める。その最上位の基本として、町行政に携わる職員をはじめ、町民に至るまで、そういう認識を薦めていますかと。それが先程、私が述べたお願いでしてね。どうもそうはなっていないのではないかと。だから、最上位の計画として描くのですけども、描くまでは良いのですがそれが棚に上がって、絵にかいた餅なのか、描いた餅がまずいのか、どちらかなのですよ。だから、皆が利用しようとしめない。町の行政も無視するし、プランはここにありますが、現実はこちらに進んでいますと。これでは意味を成しませんよというのがこれまでの皆さんの意見ですよ。そこをしっかりと町長に、音頭取りをして欲しい。そうなりますと、町長任期と議員任期とまちづくり計画は連動した方がよろしい。そうすると、事務的なことを言いますと、この8月、9月でまとめようとしているのが良いか、あと1年ずらすかですね。そして、新町長が意見を言える、それから新議員が意見を言えるタイミングを入れておかないとですね、新町長に代わった途端にプランはできていますよ、あとは継続するだけという4年間ね。これでは新町長が意味をなさないでしょう。だから、まちづくり計画と町議員、町長の任期というもののタイミングを合わされた方が良いのではないのでしょうかということと、この計画はあくまでも町の最上位計画としてのバイブルだと、各部署に中心のフレーズと部署の戦略とを貼っておいて、毎日確認しながら、担当者は今この部分をここまで、5年前はこうだったけどこれをこうするためにはこうしないといけない、としないとい何のためのプランニングが分かりませんよ。会長、違いますか。

松久会長： おっしゃることは分かるには分かりますが、この会議の趣旨というものは、別に行政機構を変えることが趣旨ではありませんからね。町長とこの会議との関係を連動させてはどうか、というお話だったと思いますが。そういう意味ではないですか。

荻野委員： そういう意見を出しても良いのではないのでしょうか。

松久会長： そういう意見があったということは構いませんが、この会議では、ここにお集まりの皆様、一人一人のご意見を伺いながら、それを町行政に反映させる。それがこの会議の趣旨ですから、行政組織そのものを変えるといった話は馴染まない私は思っております。他にいかがでしょうか。

松田和美委員： 色々と聞かせていただきましたが、3つの「あそべる」「なじめる」「はぐくめる」というのは、キャッチコピーに走りすぎた面があるかなと最初は思っておりましたが、今はこれでも良いかなという感じで聞かせていただいております。それで、もしこれで行くとしたら、この下に色々と8つ書いてありますが、その中の子育て・教育と、それから自然ということが書いていないのですが、観光とかの他と重なる部分がありますけども、河南町の自然を維持していくということ、それから守っていくということ、それから色々な取組みとかにも繋がってくると思いますので、それは「あそべる」のところに入るのかなと。それから「なじめる」のところについては、住みたい町という形で言われましたけど、その点を重視するのであれば、医療とか安全・安心とかということのポイントにして、この3つを基本の柱にしてやれば、骨子案としてできるのではないかと考えておりました。

あとは、具体的な取組みの中でどうするかについては、例えば子育て・教育であったら、前回の教育のところでは英語教育ということが言われておりましたので、これについて思い切って、ある程度のお金を投入して充実させていくとか。先程、予算の問題が言われておりましたが、町の方が全てを負担すれば非常に厳しい状況になると思いますけども寄附をお願いして、今風に言えば、クラウドファンディング的な方法を使って、寄附を依頼することによって、より取組みを住民の方にアピールしていくと。そういう考え方もできると思いますので、そうしたお金の集め方も考えながら教育に関しての充実を図っていくとか、そういうことも可能ではないかなと。特に、今、英語は自動翻訳機とか色々ありますので、そういったものを全クラスに配置して活用するとかもあると思いますので、柱として「あ・な・ば」ということですのであれば、それに合わせて3点をポイントとしてはどうかと考えました。

事務局： 申し訳ありませんが、次回の修正案を考えるにあたって確認させていただきたいことがあるのですが、数名の委員の方から、自然とかの足りない分野があることとは別に、我慢するところや8つの柱をもう少し絞った方が良いのではないかという意見をいただきましたが、我々の考えでは資料1にある通り、基本的な分野については扱いにメリハリはつけるが、最上位の計画なので何かの形でカバーした方が良いのではないかと、という考え方で骨子案を提示させていただいたということをご説明させていただいた通りなのですが、一方で、もう計画自体から落としてほしいという趣旨なのか、それともメリハリをつけることをもっとハッキリさせれば良いのか、という点についてご意見をいただくと、次回提示した際に「あれ、結局網羅的じゃないか」や「あれ、なぜこれが

載っていないんだ」という議論にならず、皆様のお時間を取ることにならないので、他の方からも意見をお伺いしたいと思うのですが。

浅野委員： 二点について申し上げたいと思います。一つは先程、我々がここで議論した結果を町長に本当に受けてもらえるのか、という趣旨の発言だったのではないのでしょうか。私が聞き間違えていれば申し訳ないです。私はそれに対して、委嘱状をいただきましたので、我々の出すものが当然、それに基づいて施策化していただけるものであろうという風に、私は思います。

それから、今、色々と具体的な話になってまいりまして、色々とおっしゃっていただいて、私も先程から出ていますように、こういう形式で分けて、分かりやすくするという点については、大変良く分かりました。それで、本当に将来の町の人口に表れてくる住みやすい町、つまり、河南町として栄えていくようにするにはどうすれば良いかについては、まず私は、町民の皆さんの関心があるのは子育て、教育、それから全世代福祉。そういったところは非常に関心が高くなるのではないかと思います。従いまして、それぞれ項目について並べていただいておりますが、当然、これを具体化する段階においてはメリハリをつけてやっていただいた方が分かりやすいのではないかと思います。

松久会長： 浅野委員の意見では、8つ項目があること自体はいいが、その中でメリハリをつけてほしいということでした。他はいかがでしょうか。

金川委員： 何度も失礼します。言葉尻を捉えるようですが、「最上位」や「基本的」というものが8つもあって良いものなのではないでしょうか。例えば、横綱が8人並んでおり、その下に大関や前頭などがズラッと並び、富士山型であるなら良いのですが、これでは8つあるのが最も上にドンとあるわけですね。ではその下に並ぶものは幾つあるのでしょうか。下に百程並ぶのであれば最上位として良いのですが、そうなってくると最上位というのは上位の上の「最」ですから、絞る一番上に幾つか、その下に上位、中、下といった形でたくさんのピラミッドがあるうちで、この項目は人口減少時代において河南町の持続可能性を確保するためにはどうしても書く必要がある分野、こちらは必要である分野、こちらは喫緊ではないけれども長期的な分野という、そういう色分けがあるかと思うのですが、私はあまり行政に詳しくはないので、この8つのもの以外にどれだけのものを私自身が挙げられるかということ、なかなか挙げにくいところがあります。ですから、できれば最上位、上位、中位という形の切り分けというものがあるのであれば、「あ・な・ば」を達成するためには、そういう順番が大事なのだなという風に思えるのではないのでしょうか。これだけ出てくると、色々と話をするけれども、今までと同じように流れてしまう気がします。例えば、この前に評判が悪かった婚活事業も言い換えたら子育てに含まれるし、ふるさと納税も観光・商業に含まれるという感じで、どれかに色々な事業が位置付けられてし

もう気がします。ですから、軽重があればと思います。

澤 委員： 先程、どなたかがおっしゃっていましたが、前回の時の6つがありましたね。内容については前回も色々と意見が出たのですが、その6つの項目そのものは8つの基本分野と基本的には一緒なわけですね。それを考えれば、項目として表現する場合に「あ・な・ば」があって、その下に前回の資料3なのですが、「子どものびのび」という項目を使うのがまずければ、「子育て支援の充実のまちづくり」、あるいは「活力ある地域づくり」とか。こういう項目に置き換えていくことの方がより分かりやすいのではないかなど。当然、前回の意見を踏まえてということになります。そして、それぞれの項目の行政的な意味合いのものは何なのかということで、8つの項目、あるいはその他にもあるかもしれませんが、そういったものが入り込んでくるようになってくる方が一般の方も分かりやすいのではないかなど。

そして、もう一つ。少しずれるのですが、スケジュールの中で第6回、8月に意見がまとまると。この計画というのは、ビジョン段階のものなのか、本来の総合計画そのものなのか、そのあたりはどうなのでしょう。もし、それが総合計画そのものではなくてビジョン的な意味合いのものならば、8月以降、それぞれの項目についてもっと検討する機会が出てくるわけですね。そうすることによって、どなたかが先程、おっしゃっておられた3月、4月に繋がっていくわけですから。その時点でしっかりとしたまちづくり計画が仕上がってくるということであっても良いのかなど。そのあたり、ご説明いただければと思います。

事務局： 前回、諮問させていただいた趣旨は、現行のまちづくり戦略と総合計画の双方を引き継ぐまちづくりの計画を作っていただくものなので、総合戦略と総合計画に代わるものが、スケジュール通りに行けば8月末には答申をいただきたい。一方で、PDCA をするという事は国からも言われておりますし、皆様からもそういった趣旨のご意見をいただいておりますので、計画ができあがった後も当然、行政はその計画に基づいた事業、施策なりをやっていくのですが、その経過を報告させていただいて、もう少しこうした方が良いのではないかとか、こういうやり方をやった方が良いのではないかとといったご意見をいただいで、計画がうまく進んでいるのかということをお客様にご報告し、ご議論いただく機会は9月以降、計画に基づいて行政の事業がスタートした後も設けさせていただく予定にしています。

松久会長： スケジュールについては、8月末に答申を出して、それについての議論はその後もずっと続くということなのですね。あと、前回までの6つの項目が8つになっているので、この言葉が良いかは別にして、8つの項目を6つにしておいた方が分かりやすいのではないかなどという意見でした。私もそのように思いま

す。

尾本委員： 私も同じ行政の立場ということで難しいところがあるのですが、意見だけなので感想のようになってしまいますが、参考になるところがあれば。思うところは、こういった計画を作る際には、前回のように意見を出して積み上げていくパターンと、今回のように一旦方向性を求めてぶら下げていくパターンの二つあると思っており、どちらが良いというのではないのですが、皆さんが納得する方法で考えていかなければならないということと、色々な計画があるということで、今回、聞いている中でこれが今でもまだ必置か忘れましたが、市町村総合計画の位置づけなのか、まち・ひと・しごとの総合戦略の位置づけなのか分かりにくいことと、先程、マスタープラン等の様々な計画があるということでしたので、簡単な体系図があれば分かりやすく、今言われている部分はこの計画で受けていて、といったやり方もあるのかなという風には思いました。あと、これも意見ですが、この計画は他の町のどこでも使えるものになってしまっているという意見がありましたが、それについては、私も外部の河南町にあまりゆかりがない人間ですが、本当に河南町の強みやどこで勝負するのかわかる場所があるのであれば、まず、そこは皆さんしか分からないところなので、その部分については私も知りたいなと思いましたが、あと、人口は減るという前提に立っているのですが、今後、積極的に人を増やす、徳島県の神山町という町内全域に IT の設備を設けて、人を呼び込み取組みを行った地方創生の成功例があるのですが、そういったところを目指すのか、北海道の夕張市のように減る前提で町を縮めていく方向でやるのか、それとも今ある人口を維持するというどちらの方向で行くのかなというのを考えたら良いのかなと思いました。あと、前回計画の振り返りについても、前回会議の資料を読んでいたのですが、KPI の数字がこうなっただけでは分かりにくい。経済上でどうなったということもあるので、よく計画で見かける SWOT 分析という強みと弱みと今後訪れる危機等で強みと弱みを出して、議論するのも良いのかなと思いました。前回の計画でできたこと、できなかったことはもう少し分かりやすくした方が良いのかなという感想は持っています。今日聞いていて一番感じたことは、策定プロセス、どういう進め方が良いかが、皆さんまだ異論があるのかなということと、あとは町政の関心事が様々なジャンルに渡るので、それをどう受け止めるのかということもあるのですが、何か、強みや弱みからやるのもやり方かなと。「あ・な・ば」というものはやり方としては、公民チックではあるなとは思いました。今のご議論を聞いていると、もう少し分かりやすい感じの方がこの場には馴染むのかなという感想を持っています。

松久会長： まとめると、河南町のオンリーワンをもっと出して日本全国にアピールして

いく方法もあり、コンパクトシティ的な考え方で身の丈にあったまちづくりの方法もある。それから、今までの反省点をまとめる必要があるのではないか。河南町のもっている強みと弱みを分かりやすくまとめたらどうか、という意見でした。他はいかがでしょうか。

上條委員： 河南町の魅力を皆さんにずっと言っていたいて、私の方からは事務局に、河南町の魅力というのは、保育料で第二子無償化してくれている。副食費を助成してくれている。22歳までの医療費を助成してくれている。就学援助制度もある。入学準備金という制度もあって、すごく私達の子育て世代にとって魅力があるので、これを外に向けて言ってあげると、河南町ってそんなことをしてくれているんだという話をいただくんです。ですので、そういうものを、この「あ・な・ば」を使っていくのであれば、下の8つの項目ではなく、「あ・な・ば」だけにして「あそべる」であるとか「あそびがある」。子ども達のためにこういうことをしていますよと。「なじめる」では、学校に行きにくい子ども達が大阪府には多くいると思いますが、河南町であれば教育にすごく力を入れていますと。「はぐくめる」では自然が豊かで、だんじりもあるし、古墳も近い、そういった歴史を学べる地域であるということがすごく分かりやすいと思うのです。そういったことを謳っていただければ、住民に対しても河南町ってこんなことをやってくれているんだ、住民の意見も聞いてくれているんだということが分かりやすいかなと思っていて、事務局にはお話をさせていただいて、そういった意見もこの資料に入れていただいているので、すごく分かりやすい。私もまだ河南町に住んで7年しか経っていないのですが、他の地域からやってきた身であるけれども、今、子育てしていて、河南町はいいところだと富田林や河内長野の人に勧めたりはできているので、もう少しそこを住民として、河南町として広めていただければ有難い。仕事をしている私達は、もっと河南町で働きたいのですが、職場が富田林であったり河内長野であったりと、少し遠くなってしまうので、もっと河南町で働ける場を作っていただけたら、とても有難いなと思います。

佐々木委員： 基本分野の8つについてですが、8つは住民に対してアプローチしにくい。アプローチしやすい数は3つや5つが一般的などと言われていますが、それに合わせる必要はないのですが、8つというのは多いかなと思いますので、他の方がおっしゃっていたように、8つ並べるにしても緩急をつけるというのが必要かなと思います。その中でも、子育て・教育というのは河南町がずっと力を入れていて、やはりアピールポイントなんですね。それと、都市計画を含むインフラ整備というのが人口維持のためには欠かせないと思うので、その二つは必ず上位に位置づけ、行政の効率化・高度化については最下位に位置づけるべきものかなと思います。緩急つけてほしいです。

事務局： 一点、説明させていただきます。今、色々とお話していただいている中で、河南町の特長を「あ・な・ば」とさせていただきます、「あ・な・ば」を磨くための重要分野ということで3点を挙げさせていただきます。その中で様々な事業を優先して書いておりますのが、資料2の3ページ目の事業になっておまして、その下に書いております8個の事業、これはこういう分野がありますよと。今後、この分野をしていく中でどういう体系、おっしゃっておられますように8つでは多いですよと。それでしたら4つの体系にしましょうか、5つの体系にしましょうかと。その体系に基づいて、その下にインフラ整備とかをくっつけていきたいと思いますという形を考えておまして、まだこの分野が8個になるかどうかというのは今のところでは、決まっていなと思っています。だから、重要分野をする中で、この下にはまだこういうこともありますねと、書いている事業、分野のことですので、この辺りはできましたらこのまま、また色々議論のなかで、先程言われましたように自然とエネルギーが入っていないよとか、言っておられた点もあると思います。その点も入れていただいて、そこからまた、この分野で体系を作っていただきまして、体系から色々な施策などを下ろしていただくような形にさせていただきたいと思います。

松久会長： 8つの分野というのはあっても、実際にはこの場で議論しながら数も変わっていきますよということなのですね。

岡本委員： 子育て、教育、医療は比較的充実していると聞きましたが、外部から入ってきた時の住宅の補助と言いますか、それは、今どういう状況で、今後どういう形に持っていかれるのでしょうか。町外から新しい方が移住された際の住宅のことです。総合戦略の移住・定住促進プロジェクトの中に取組みの方向性として、空き家の利活用の検討だとか移住者向け住宅行政の推進と書いてありますが、この進捗はどうなのでしょう。

事務局： まず、空き家については、空家バンクという空き家を登録していただく仕組みを作っているのですが、まだ登録が数件しかない状態なので、そもそも登録していただいている人が多くないと、それを狙って来ていただくというのが難しいので、仕組みは作ったけども使われている人が少ないということが課題になっています。もう一つ、河南町の場合は、もともと河南町に住まわれていた方が学業や就職といったライフステージの中で外に出ていかれる方が多かったので、そういった方に戻ってきていただくということで、三世同居近居補助金というものをしております。例えば、河南町に祖父母がお住まいでそのところにお子さんとお孫さんと一緒に入ってきて、新築だったら幾ら、リフォームだったら幾らという補助金を出しています。それについては、多い時に

は年間 15、16 件の実績が出ておりますので、1 世帯入ってくると平均 3.5 人とかが入ってくることになるので、それなりに成果がでていかなと認識しております。50、60 人程の転入になっているのかと思います。

山口委員： 骨子の 8 項目と資料に掲載されている 10 項目が一致していない。

事務局： そこは、わざと対しておりません。重要分野と基本分野と分けている趣旨は、河南町として全ての分野に力を入れると総花的になるので、特に力を入れるべき分野というものを重要分野として「あそべる」「なじめる」「はぐくめる」でグルーピングしてはどうかということを入れております。一方で、「あそべる」「なじめる」「はぐくめる」に直に繋がるものと繋がらないものがあるもので、その扱いでメリハリをつけてはどうかというのが、今日の骨子のご提案でして、逆に、山口委員がおっしゃったように、この骨子案の 3 ページ目の中に 8 項目全てを入れるべきだというご指摘であれば、8 項目全てが同じ重さの扱いになるので、そこの是非をどうお考えになるかということだと思っております。

荻野委員： 個人的なことばかりを押し付けるつもりはありませんが、大事な会議ですので、言うべきは言っておきたいと思い、主張しておりますが、会議の進め方、これも大事なのです。本日は骨子案を語ろうとされています。そのことで言いますと、確かに町長が最初の文言で人口減少等についての指摘をされておられます。全国的傾向です。河南町だけではございません。それについては各市町村で様々な動きがありますが、あまりそのことだけを人口減少にどう対応するか、減らさないようにどうしたら良いかという短絡的と言いますが、そういう発想でプランを練る必要はないと思います。勿論、頭の片隅には日本はそういう傾向になりますよということを抑えながらも、だからこそ余計に、河南町としてはどう踏ん張るか、あるいはどういう風にやるかをこの 8 項目のベーシックな尺度で具体的に求めていく。オンリーワンも求めていく。図形的には、五角形や六角形で角を作って、そこにオンリーワンの内容を入れて、立体的に底上げしていく。人口減少という言葉と実態にあまり引っ張られない方が良いと思います。

もう一つは、事務局は大変だと思います。また、委員会も皆さんがお忙しいので、そう何度も開くわけにはいかなければ、事務局が空いている時間でフリーディスカッションする。そして、委員や他の部局の方も集めて、そういった「玉川勝手連」といったものを作っておいて、意見を吸い上げるというシステムを今後の会議で用いられてはどうかと思います。会長は、町長や議員の任期と計画を連動するというのはおこがましい、それは任務ではないとおっしゃりましたが、私はやはりそういったことも考えて欲しいと思います。本当に

まちづくり計画を上位計画として活かすならそれをしないと、次の発展がなかなか見込めないと思っております。

村元委員： 本日は骨子案ということで議論していただいておりますが、骨子案の目的なのですが、人口減少時代において河南町の持続可能性を確保すること、と書いているのですが、これの意味の取り合いが色々であろうかと思うのですが、人口減少の対策としてやられるのか、また、河南町の活性、持続するための意味合いか、私には把握しにくい点なのです。二点目としては、「あ・な・ば」ということで先程からご意見をいただいていたのですが、私は個人的にはうまく書かれているかなと思う点です。その中で、本日は総論的な話なのですが、今後、計画の中で小論的なご意見も出てくるかなと思います。それを取り上げてこの骨子案を活かしていただけたらと思います。そして、この8つの項目ですが、これは町行政と言うよりも町運営においては省くことができないことなのですね。どの分野に持っていくかは、今後考えていただければ良いと思います。もう一つは、やはり河南町の特徴を活かしていったら、近つ飛鳥博物館や立派な芸術大学もありますので、そこの協働的な計画も、ぜひ踏まえていただけたらと思います。

松久会長： 本日の質疑は、ここまでとしたいと思います。

骨子について、本日の会議では合意に至りませんでしたので、本日の意見を踏まえて、事務局の方で骨子の修正案を作成してもらい、次回の会議で改めて議論することとしたいと思います。

事務局： 骨子案の修正及び会議の進め方について再度検討し、日程調整の上、来月以降でもう一度、開催したいと思います。

最後に確認となりますが、骨子案について、河南町の特長と「あ・な・ば」を磨くための重要分野を記載しています。「あ・な・ば」と「あそべる、またはあそびがある」「なじめる」「はぐくめる」については、内容については、これで良いということでもよろしかったでしょうか。その下の基本的分野については、今後の検討課題という意見でもよろしかったでしょうか。

(異議なし)

松久会長： 「あ・な・ば」というタイトルと、その下の3つについて多少名前が変わるかもしれませんが、皆さん基本的に賛成されたと。その下の項目については、これからどうするのか検討することです。

時間を過ぎておりますので、これで会議を終了します。ありがとうございました。